

1 研究主題

自己を見つめ、人としての生き方について考え、
よりよく生きようとする力を育む道德教育の創造
～小・中をつなぐ主体的・対話的で深い学びの授業づくりと
道德学習プログラム「吉（よ）き舎（やど）りプログラム」を通して～

2 主題設定の理由

本中学校区では、小学校2校，中学校1校で小中一貫教育目標を「自ら学び 考え 自立した行動ができる『きさ』の子どもの育成」とし、平成30年度より研究教科を「特別の教科 道德」とした。昨年度の研究主題を「自己を見つめ、自己の生き方について考えを深め、よりよく生きようとする力を育む道德教育の創造～小・中をつなぐ主体的・対話的で深い学びの授業づくりと道德学習プログラム『吉（よ）き舎（やど）りプログラム』を通して～」と設定し、研究を行ってきた。授業では児童が「問い」をもち、思考を深める対話を通して「見方・考え方」を広げ、ねらいとする道德的価値に迫ることができるように、教材提示や中心発問の工夫等を行ってきた。

本年度は、重点項目を「A善悪の判断，自律，自由と責任（自主，自律，自由と責任）」「B友情」「C 伝統文化の尊重・国や郷土を愛する態度（郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度）」「D自然愛護」と設定し、系統的で特色ある道德教育を推進するとともに、重点的指導を工夫しながら、内容項目全体の効果的な指導が行えるようにし、児童のよりよく生きようとする力を育んでいく。

さらに体験活動や各教科，総合的な学習の時間，特別活動等を道德科と関連付けた道德学習プログラム「吉き舎りプログラム」を作成し、地域の特色や地域で暮らす人々や伝統，文化について理解を深め、郷土を愛する心情を育てていきたい。

3 目標と取組

小中9年間を貫く道德教育の実践研究を行う。

○「考え・議論する道德科」の実現

・道德科の授業は、ともすれば反省や懺悔，心がけや禁欲の決意表明となりがちである。しかしながら、それは、授業ではなく日常的に行っていることである。そこで本校では、授業を児童にとって価値理解，人間理解について新たな気づきがある学びの時間としたい。主体的に自分との関わりで考え，多様な感じ方・考え方を交流することで，生き方について考えを深めることができる道德科の授業づくりをめざしていくこととする。そのために，教材研究によってねらいとする価値を明らかにし，子供が本気で考え始める論点を見だし，考えを深める発問を意図的に組み立てる教師の指導性を追究していく。さらに本校は，完全複式学級であるため，学級の児童には発達段階に差がある。そこで，教材の内容を理解しやすくなるような教材提示の工夫（挿絵，紙芝居，ICTの活用など）を行う。また，発達段階の個人差に合わせた適切な支援を工夫し，互いに高め合う道德授業を目指す。とりわけ上位学年にはステージ発問を用意しより質の高い発言を導いたり，切り返し発問により児童の潜在的な価値を掘り起こしたりすることで本時のねらいに迫る授業を構築していく。

○体験と道徳科を関連付け、生き方を考えさせる道徳教育の実現

- ・体験活動や各教科、総合的な学習の時間、特別活動等を道徳科と関連付けた道徳学習プログラム「吉き舎りプログラム」の実践と改善を行う。各学年の発達段階に合わせ期間を限定していくことで、めざす姿を児童と教師が相互に意識しながら実践することができる。本年度は、本校の伝統であるオペレッタ「八幡の四季」について総合的な学習と関連付けながら、地域教材の開発にも努めていく。また、地域人材（ゲストティーチャー）を招いた授業展開を年間1回以上計画する。

○「特別の教科 道徳」の指導と評価の一体化

- ・道徳ノートを中心にした、認め、励ます個人内評価の実現と、指導の改善・充実に生かす授業評価の実現をめざす。各学期ごとの評価は、重点項目と「吉き舎りプログラム」を関連づけ、おおくりなまとまりを踏まえた評価を行っていく。

4 研究の仮説と検証の視点

(1) 研究の仮説

道徳性の発達段階を意識した授業づくり、道徳学習プログラムの改善、指導と評価の一体化を行えば、よりよく生きようとする力を育むことができるであろう。

(2) 検証の視点・方法

<検証の視点>

- (1) 自分の考えをノートに記述することによって、児童が自分の中に育ちつつある道徳的価値について問いかけ、新しく発見し、自己の生き方について考えを深めることができたか。
- (2) 振り返りの場において、他者の考えを受け止め、感じ方や考え方は1つではない、多様であることを理解し、自分への自信や児童が生活している現実の場面・状況においても道徳的価値の実現を図ろうとする心情が育ったか。

<検証方法>

○意識調査の実施（児童・教職員）

【児童】

『道徳の時間』では、自分のことを振り返りながら考えている」

『道徳の時間』では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている」

『道徳の時間』で勉強したことを、自分の生活にいかしている」

「みんなで協力し合って、よりよい学級や学校をつくらうとしている」

「住んでいる地域が好きだ」

の項目に肯定的に回答する児童の割合が95%以上。

【教職員】

『道徳の時間』では、児童が自分のことを振り返りながら考えるような指導の工夫をしている」

『道徳の時間』では、児童が友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりするような指導の工夫をしている」

『道徳の時間』では、『特別の教科 道徳』の趣旨を踏まえた、多様な指導方法の工夫を取り入れている」

「児童に道徳性を育成するための体験活動が充実していると思う」

「自校の道徳教育に関する研修は充実していると思う」

の項目に肯定的に回答する教職員の割合が90%以上。

5 研修計画および検証計画

(1) 研修計画

4月	学校経営計画・教育研究推進計画 授業観察 理論研修(評価・吉き舎りプログラム)
5月	学習指導案検討
6月	学習指導案検討 模擬授業 授業研究
7月	研究授業の分析と検証 児童・保護者アンケート
8月	教材研究 教材作成 学力向上及び授業改善について 指導案作成 指導案検討 模擬授業 いじめ防止研修 道徳プログラム作成 学習発表会シナリオ作成
9月	模擬授業
10月	授業研究
11月	授業研究の分析と検証
12月	児童・保護者アンケート・ノート分析
1月	模擬授業
2月	授業研究 三次市学力到達度検査の実施及び分析
3月	来年度研究主題・副題の設定 年間指導計画・シラバスの作成

(2) 検証計画

4月	計画作成 道徳アンケート
5月	i-check
6月	授業観察 児童・保護者・教職員アンケート
7月	授業観察
10月	授業観察
11月	授業観察
12月	児童・保護者・教職員アンケート i-check
1月	授業観察 三次市学力到達度検査 道徳アンケート
2月	三次市学力到達度検査分析・検証